

Google for Education 積極活用で 地理的ハンデを克服し、『山の向こうの世界』を見据える 津和野高等学校のチャレンジ

島根県立津和野高等学校は、他地域との行き来に難のある地理的ハンデを ICT によって克服し、世界で活躍できる人材を育てるため、生徒の主体的な学びを発展させています。県の ICT モデル校になったことをきっかけに Google for Education を先行導入し、1 人 1 台端末環境のもと、とりわけ探究活動で独自の取り組みを深める同校の ICT 活用の状況を、導入・展開のキーパーソンといえる 2 人の教員の話から描いていきます。



島根県立津和野高等学校
島根県鹿足郡津和野町後田 12-3
<https://tsuwano.ed.jp/>

1908 年津和野高等女学校として設立され、改称・統合を経て 1949 年津和野高等学校となる。地域とのつながり及び生徒個人の可能性を重んじ、「あの山の向こうの世界に伍する者であれ」というスクールポリシーのもと「能動的な学び」「他者との協働」「世界への挑戦」「社会への貢献」の 4 つの視点で生徒の育成に取り組む。歴史・文化の町である地元津和野町との深い関わりの中、地域に根ざした行事にも力を入れる。生徒数 194 人、教員数 24 人。

 200 台
Chromebook

01

地域との深いつながりの中で 探究活動を重視

山陰の小京都と呼ばれる津和野は、島根県最西部に位置し、山あいの盆地に多くの伝統的建造物が残る歴史の香りにあふれた町です。文豪・森鷗外の出身地としても知られ、古くから人気の観光地です。

町自体が山々に囲まれていることもあり、津和野高校では「あの山の向こうの世界に伍する者であれ」というユニークなスクールポリシーを掲げています。全校生徒約 200 人のうち 3 分の 2 が町内や近隣地域、残りの 3 分の 1 は全国各所から入学し、寮生活を送る生徒が在籍しています。

同校は 2020 年度と 2021 年度の 2 年間、県の ICT モデル校指定を受け、2020 年 10 月から全生徒 1 人 1 台端末環境になりました。このとき導入されたのが Chromebook と Google Workspace for Education (以下、Google Workspace) です。同校で 6 年目となる教務主任の山根 幸久氏は ICT 担当として、校内での Chromebook 活用推進を牽引してきました。

導入以前は、「いま考えると信じられないほど (ICT を) 使っていませんでした。私自身も Chromebook を触ったことはなく、どうすればいいのだろうと悩んだのを覚えています」(山根氏)と話します。山根氏自身はそれまで触ったことのない OS を搭載した新しい端末について興味を持ちましたが、当然ながら、教育での ICT 活用に懸念を示す教員もいたため、教員をいかに巻き込んでいくか工夫を重ねたと振り返ります。

島根県立津和野高等学校



教諭
山根 幸久氏

02

『他社製 OS 慣れ』していた教員を動かす環境づくりの工夫

導入当初から、ICT に興味を持つ教員の間では試しに使ってみよう、という動きが出たものの、そうではない教員はやはり全く使わないことがすぐに見えてきました。「教科ごとにスタイルが異なり、授業での活用を一斉スタートするのはやはり無理がありました」と山根氏は話します。そこでまずは、校務での活用から試すことにしました。「まずは ICT 活用の効果を教員たちに認めてもらうことを目指しました。Chromebook と Google Workspace を毎日使う状況を作るために、教員間の情報共有からスタートしたのです」(山根氏)

教員に端末を使うこと自体に慣れてもらうため、朝礼での伝達事項を Google スプレッドシートに入力し、毎朝それを確認し合うことから始めました。さらに、Google Classroom で課題のやり取りを行うことを目的に、紙プリントで配っていたワークシートを一部データで配信する取り組みなども進めていきました。

前述のように山根氏自身、Chromebook に触れたのは初めてで、他の教員も使った経験は限りなくゼロに近い状況でした。導入当初は、他社製 OS・ソフトウェアとの仕組みの違いに驚きます。

「PC での作業は各個人が行い、ファイルもすべて PC 内に保存するものだと思っていました。だからこそ、複数人で共同編集でき、それがクラウドに即時保存されるというのは本当に新鮮に感じたのです。また、端末の調子が悪くなることもあったのですが、その場合もデータはクラウドにあるので代替機で簡単に復旧でき感動したことを覚えています。教員の業務の観点でも、ど

こにいてもデータをチェックできますし、とにかく便利だと感じました」(山根氏)

Google for Education の活用に慣れない教員たちには、共同編集・即時保存など、山根氏が感じた便利さを積極的に紹介し、少しずつ慣れてもらえるような取組みを推進していきました。業務や会議に必要な資料も、可能な限り紙ではなくデータの状態で渡すように徹底しました。そうした工夫のおかげで、授業でも校務においても、Chromebook と Google Workspace を日常的に使う環境が醸成されていきました。

同校に赴任して 2 年目の川上 真氏(化学担当)は、前任校で ICT をほとんど活用していなかったため「津和野高校に初めてきたとき、教頭が Chromebook を持ちながら説明していたことがまず衝撃でしたし、職員会議も紙を使わず Chromebook と Google Workspace ですべて情報共有しており、いい意味で使わざるを得ない環境が出来上がっていたのが驚きでした」と振り返ります。

島根県立津和野高等学校



教諭
川上 真氏

03

生徒の間で主体的活用が広がり、多様な成果が生まれる

同校は、地元住民が日常的にさまざまな面でサポートをしてくれるため地域とのつながりが深く、祭りや田植えなど地域の多彩な行事に参加するほか、地域の歴史・文化を取り入れた探究活動に力を入れています。

Google for Education はこれらの探究活動でも大いに活

用されています。「校内で生徒がアンケートを取ったり、チラシを作成して発表したりといった、それまで紙で行っていた活動を Google Workspace に置き換えることで、さまざまな効果が生まれていると感じます。例えば、他の生徒のデザインを参考にしながら自分ならではのアイデアを考案していきますし、取り組むうちにそのクオリティも自然と上がっていくのを日々実感しています」(川上氏)

Google Workspace の各アプリも、お互いの使い方を見なが

ら真似をするうち主体的に学んでいき、発信も簡単に行えることから使用頻度が増えています。探究活動を含め、各教科の授業では教員側から使うアプリを指定することはなく、シーンに応じて Google フォームや Google スライドなどを生徒たちが自由に選択して活用しています。

さらに、主体的活用が広がることで、生徒たちの発案により Google フォームを使ったアンケート実施をはじめ、新たな活動が次々と生まれています。

「遠足で乗るバスの座席を生徒たちに決めさせたのですが、生徒自ら Google スプレッドシートで座席表を作成し、希望の席を書き込めるようにして、席が決まった状態で私に見せてきました。こういう使い方もあるんだと気づかされました」(川上氏)

さらに、Google スライドで効果的なアニメーションを入れ、わかりやすいように文字のバランスを整えて写真を配置して資料を作成。その資料を使って生徒からの発信も多くなり、プレゼンテーション力も伸びています。グループで行うプレゼンの段取りも、遠

隔での共同作業をうまく取り入れ、効率的に準備するようになった、と山根氏が話してくれました。

活用は授業だけでなくクラブ・委員会活動でも進んでおり、川上氏が顧問を務める地域コラボレーションの部活動では、生徒たちが Google サイトを駆使し、情報共有や地域の関係者との予定調整を自主的に行っています。



04

地域を超えて世界とつながる 今後の活用拡大に大きな期待

導入による生徒の変化としては、上記に加えて「小テストを Google フォームで行うことで、同じ問題を何度も繰り返し解き、理解力向上に効果が出ている生徒がいます。繰り返し学習をサポートするツールとして効果がありそうです」と川上氏。そのほか、夏休みに県外へ帰省する生徒と Google Meet でコミュニケーションしたり、Google ドキュメントで進学志望理由書を共有したりなど、物理的距離を縮めるうえでも効果を感じていると語ります。また

山根氏は、Google ドキュメントや Google スライドのコメント欄を利用して具体的なアドバイスができるため、生徒の理解度が増したことを実感していると教えてくれました。生徒とのコミュニケーションの機会も増え、答えの採点だけでなく、答えに至る過程を評価できるようになり、生徒の新たな一面が見えてきた点も大きな効果だと両氏は口を揃えて言います。

一方、教員の校務の面でも、朝礼や職員会議等の資料共有を Google サイト上のリンクを通じて行い、情報伝達の効率化と大幅な時間短縮が実現しました。Google Chat を使った教員間コミュニケーションや情報共有も日常的に行われています。ペーパー



レス化も進み、ICT モデル校初年度のある月と翌年同月の紙使用量を比べた結果、月間の使用量が 2 万枚削減されました。教員が行う授業の振り返りを以前は紙で提出していたものを Google フォームに移したことで、紙配布・回収の時間が削減され、確認も手軽になって授業改善、業務効率化に活かしていると両氏は評価します。

山根氏は、ここまでの活用を踏まえたこれからの展望を次のように語ります。「今後は自己評価のポートフォリオや生徒の計算過

程を見られる教材の作成、Google サイトを使った生徒自身による情報発信と、さまざまな取り組みに対する教員からの適切なフィードバックにより、生徒の力をさらに高めていきたいですね。津和野町は町自体が山々に囲まれ地理的なデメリットがありますが、ICT を活用することで町外はもちろん県外、海外にもつながります。物理的距離を克服して外部からより多くの刺激を受け、視野を広げて、まさに『あの山の向こうの世界』で、あるいは地域に残って世界を見据えながら活躍できる人に成長してほしいと考えています」



津和野高校のポータルサイト「ツポータル」の画面

取材日: 2023 年 11 月 1 日

Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える教育テクノロジーソリューションです。

Google for Education の特徴

- 簡単操作
- 手ごろな価格
- 高い汎用性
- 高い効果

1

chromebook

教育向けに設計され、授業向けに開発された軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

3

Google Workspace for Education

時間や場所を問わず学校全体で共同利用できるクラウド型教育プラットフォーム

2

Google Classroom

教師と児童生徒向けに構築された学習プラットフォーム

4

Chrome Education Upgrade

1つの端末から同じドメインのすべてのChromebookを設定
シンプルなクラウド型管理コンソール